

# 環境負荷の低減



地球温暖化の防止と循環型社会の構築を両輪に、グループ一体となって環境負荷低減への取り組みを強化しています

## グループマネジメント方針

### 「環境宣言」に基づいて地球温暖化の防止を軸とした環境負荷低減策を推進しています

セブン&アイHLDGS.は2008年6月、各事業会社がこれまで取り組んできた環境対策を強化し、地球温暖化の防止を軸とした包括的な活動に発展させるための方針・目標をまとめた「環境宣言」「地球温暖化防止に関する基本方針」を策定しました。今後、この方針に則ってサプライチェーン全体を視野に入れた環境負荷低減策を推進していきます。

事業会社が各々の事業特性に応じて効果的な取り組みを進めていくためには、CO<sub>2</sub>排出量の正確な把握が必要となります。そこで主要事業会社の2008年度のCO<sub>2</sub>排出量データについて第三者機関によるレビュー\*を実施しました。

\* レビューとは第三者がデータを確認し、その結果を報告することです。

## TOPICS

### インドネシアで約58,000ヘクタールの原生熱帯林保全プログラムを開始しました

セブン&アイHLDGS.は、熱帯林に関する国連の条約機関である「国際熱帯木材機関(ITTO)」を通じた「原生熱帯林保全プログラム」を2009年春に開始しました。インドネシア政府と連携し、約58,000ヘクタールにわたる原生熱帯林を保全していきます。

ITTOは、今回のプログラム実施を受けて当該地域の森林局と連携し、「森林保全全部局の体制強化」や「森林保全活動を行う住民リーダーの養成」、さらに「森林保全教育や学校設置等の社会基盤整備」などの活動を行います。

また今回のプログラムには、地球温暖化の大きな原因と言われている熱帯林の破壊による大気中へのCO<sub>2</sub>放出を防ぐとともに、生物多様性の保全という観点から熱帯林の希少な動植物を保護するという意義もあります。このプログラムの実施によって、セブン&アイHLDGS.の国内主要事業会社の2008年度1年間のCO<sub>2</sub>排出量の約54%にあたる、120万トンのCO<sub>2</sub>排出抑制効果が見込めます。

## 主要事業会社の主な取り組み一覧

コンビニエンスストア事業	
セブン-イレブン	
環境負荷の適切な把握	○ CO <sub>2</sub> 排出量データ 第三者レビューの実施 →P76
エネルギー効率の向上と再生可能エネルギーの導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 省エネ型設備・機器の導入 →P27</li> <li>● LED照明・太陽光発電パネルの導入 →P27</li> <li>● 物流の効率化 (車載端末設置、CNG車ハイブリッド車の導入推進) →P29</li> </ul>
廃棄物の削減と循環型社会の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>● レジ袋使用量の削減(お客様への声かけ、レジ袋の薄肉化、サイズ見直し) →P28</li> <li>● 食品リサイクルの推進 →P28</li> <li>● 容器包装材の使用量削減(お弁当包装のラップからシールへの変更、オリジナル飲料のラベル幅の縮小、オリジナルペットボトル・チルド飲料のフタの廃止等)</li> </ul>
生物多様性への対応	原生熱帯林保全プログラムの実施 →P24
環境に配慮した商品の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オリジナルエコバッグの販売 →P59</li> <li>○ 地産地消商品の開発・販売 →P50</li> </ul>
従業員への意識啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 加盟店との環境情報の共有 →P29</li> </ul> <p>6月の環境月間におけるグループ全体での従業員への意識啓発、清掃活動などの実施</p>



●:本レポート中に独立した項目で記載 ○:本レポートの本文中で言及 一:取り組み未実施

スーパーストア事業		百貨店事業	フードサービス事業	金融関連事業
イトーヨーカドー	ヨークベニマル	そごう・西武	セブン&アイ・フードシステムズ	セブン銀行
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 省エネ型設備の導入 →P30</li> <li>● LED照明・太陽光発電パネルの導入 →P31</li> <li>● 温度帯別・エリア別トランスファースターの設置による配送距離・台数の削減</li> <li>● エコドライブの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 冷蔵多段ケースの省エネ策の実施 →P30</li> <li>● LED照明の導入 →P31</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 省エネルギー設備の導入 →P34</li> <li>○ LED照明の導入 →P34</li> <li>● 毎日ライトダウン実施（ブラックイルミネーション）</li> <li>● 店舗の屋上・壁面の緑化の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 省エネ型設備機器の導入 →P33</li> <li>● 物流拠点の見直しによる車両走行距離の削減</li> <li>● 混載納品による積載効率の見直しを通じた車両台数の削減</li> <li>● 車載端末の管理による燃費の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ATMの省エネ設計の推進</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● レジ袋使用量の削減（配布基準の徹底、素材の薄肉化、エコスタンプカードの導入、有料化） →P32</li> <li>● 食品容器包装の使用削減（ばら売り、素材の見直し） →P32</li> <li>● 食品リサイクル・ループの構築 →P32</li> <li>● 分別の徹底</li> <li>● 食品廃棄物リサイクル付加金制度の運用</li> <li>● 「通い箱」導入によるダンボールの削減</li> <li>● 生物多様性に配慮した農法を採り入れた商品の販売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● レジ袋の有料化 →P32</li> <li>● 食品リサイクルの推進 →P32</li> <li>● 再生トレイの導入 →P32</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生ごみ処理機の店舗設置</li> <li>● コンポスト肥料で栽培した農産物の販売</li> <li>● スマートラッピング（簡易包装）の推進</li> <li>● レジ袋辞退カードの設置</li> <li>● リターナブルコンテナ導入、ハンガー納品化によるダンボールの削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食品廃棄物の削減・堆肥化 →P33</li> <li>● 120回の洗濯に耐える制服の製作・使用</li> <li>● 制服クリーニング水の循環利用</li> <li>● 本部社員食堂でのマイボトル持参者へのポイント提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ セカンドディスプレイの活用による販促用の紙媒体の削減 →P46</li> <li>● ご利用明細票発行の必要・不要の確認表示</li> <li>● ATM部品のリサイクル</li> </ul> 
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オリジナルエコバッグの販売 →P59</li> <li>● オーガニック商品・環境に配慮した農法を取り入れた商品の販売</li> <li>● クールビズ・ウォームビズ対応商品の販売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オリジナルエコバッグの販売 →P59</li> <li>● オーガニック商品の販売</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境に配慮した商品とライフスタイルの提案 →P35</li> <li>● オリジナルエコバッグの開発・販売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 建築端材や間伐材を活用した割り箸を店内で使用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 従業員向け小冊子の配布</li> <li>● ごみ分別教育のための「廃棄物処理手順書」改訂と「リサイクル333キャンペーン」の実施</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 従業員向け小冊子の配布</li> <li>● ごみ分別教育のための「廃棄物処理手順書」改訂と「リサイクル333キャンペーン」の実施</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● eラーニングによる従業員向けの環境教育</li> <li>● 入店時環境教育の実施</li> <li>● 従業員向け環境リーフレットの配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 会議・研修時の省エネルギーの推進教育</li> <li>● 店舗での「省エネチェックリスト」の運用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社員と家族が自然について学ぶ「ポノロンの森環境活動」</li> <li>● 環境研修の実施</li> </ul>



# コンビニエンスストア事業

## 店舗におけるCO<sub>2</sub>排出抑制



### サービスの多様化や店舗数の拡大にともなう電力消費の増加を抑制しています

※1 店舗全体のCO<sub>2</sub>排出量はエネルギー使用量が把握可能な店舗のデータをもとに1店舗当たりの平均電気使用量を推計し、その値から店舗全体のCO<sub>2</sub>排出量を算出しました。

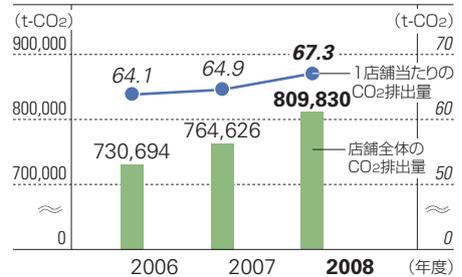
セブン-イレブンが排出するCO<sub>2</sub>の大半は、店舗運営に不可欠な照明や空調、設備・機器の電力使用にともなうものです。お客様ニーズの多様化に対応した新規サービスの導入や店舗数の増加などによって、エネルギー使用量は増加傾向にあります。

2008年度は、環境配慮型店舗を2店舗開店するとともに、新店・改装店において省エネ型の照明・設備を積極的に導入しました。しかしながらフライヤー（調理機器・ウォーマー）の導入店舗がさらに拡大したことや、店舗の大型化の影響もあり、1店舗当たりの電力使用量は前年度よりも増加しています。

今後も引き続き、積極的な省エネ投資を進

めるとともに、店舗ごとのエネルギー使用量の削減に向けて、省エネ対策の周知を強化していきます。また店舗の定期メンテナンス制度を活用して、加盟店様と連携した省エネ対応の仕組みを構築していきます。

■ 店舗全体のCO<sub>2</sub>排出量\*1と1店舗当たりのCO<sub>2</sub>排出量



※2 「社会インフラとしてのコンビニエンスストアのあり方研究会」報告書、および「社会インフラとしてのコンビニエンスストア宣言」の詳細については、経済産業省、(社)日本フランチャイズチェーン協会のWebサイトを参照ください。

経済産業省  
http://www.meti.go.jp/

(社)日本フランチャイズチェーン協会  
http://jfa.jfa-fc.or.jp/index.html

## TOPICS

### 「社会インフラとしてのコンビニエンスストア宣言」について

2008年12月、経済産業省が主導して、主要コンビニエンスストア・チェーン代表者と有識者が参加した「社会インフラとしてのコンビニエンスストアのあり方研究会」が発足、2009年4月に報告書が発表されました\*2。同報告書では、今後コンビニエンスストア業界が社会的責任を果たしていくうえでの4つの課題と、それら課題の解決に取り組むうえでの3つの視点を指摘しています。

同報告書を受けて、セブン-イレブンが加盟する(社)日本フランチャイズチェーン協

会では、コンビニエンスストア業界共通の取り組み目標として「社会インフラとしてのコンビニエンスストア宣言\*2」を発表しました。同宣言では環境への課題として①太陽光発電装置の導入、②LED照明の導入、③電気自動車導入および高速充電スタンド設置、④食品リサイクルの推進があげられています。

セブン-イレブンでも、この宣言にある項目を重要な課題として認識し、加盟店様や業界各社と連携しながら目標達成へ取り組んでいく考えです。

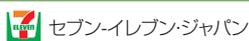
#### 4つの課題

1. 環境
2. 安全・安心
3. 地域経済活性化
4. 消費者の利便性向上

#### 3つの視点

1. 本部・加盟店間での持続的な発展のための関係構築
2. コンビニエンスストア各社の競争と業界としての協働
3. 行政との役割分担・連携

## 省エネ型設備の開発と導入



## 既存店・新店の双方でエネルギー効率の向上を目指しています

既存店のエネルギー効率向上を図るために、セブン-イレブンでは、既存店の設備を継続的に見直しています。また、機関誌や商品展示会などを通じて、設備・機器のメンテナンスや清掃方法などの周知に取り組んでいます。これらに加えて、新しい省エネ技術を採用した設備の導入も進めています。

## 看板類へのLED照明の導入

店舗での電力使用量の約15%を占めるのが、店内照明や看板類に使用する電力です。これを低減するために、店頭看板やサインポールの光源としてLEDの採用を進めています。LEDは蛍光灯と比較して消費電力が少なく長寿命であるという特性があります。2008年12月か

ら新店・改装店で導入を開始、2009年8月末時点で836店まで導入が進んでいます。

## 太陽光発電パネルのテストを実施

2008年9月から太陽光発電パネルを設置して消費電力の一部を太陽光発電でまかなうテストを実施しています(2009年8月末現在8店舗)。天候によって効率が変動する太陽光発電パネルの発電状況をみながら、今後の設置拡大などについて検討していきます。



太陽光発電パネルを設置した店舗

## 環境配慮型店舗の開発



## 太陽光を最大限活用した省エネ型店舗をオープンしました

セブン-イレブンでは、環境配慮型店舗として2008年2月に「長野吉田2丁目店」(長野県)を、同年11月に「上賀茂榊田町店」(京都府)をオープンしました。

また2009年8月には「多摩豊ヶ丘4丁目店」(東京都)をオープンしました。同店は内外装から設備までトータルに最新の省エネ施策を採用しています。

例えば、フリースタンド型店舗(独立型の店舗)のメリットを活かして、店内に太陽光(自然光)を採り入れるトップライト(天窗)を導入しました。屋上には太陽光発電パネルを設置して、自然エネルギーを最大限活用できる設計としています。また店内照明・外灯・ショーケースにはLED照明を導入。さらに、省エネ型の空調設備、前面ガラスには断熱ペアガラスを導入することで店内空調負荷の軽減を図っています。

これらの施策によって、同店では従来型の店舗と比較して年間約2万kWhの電力使用量削減を目指しています。また採光の改善などによる店舗イメージの向上も図り、よりフレッシュなセブン-イレブンとしてご利用いただけることを期待しています。

これら施策の効果を検証したうえで、今後の新規開店や改装時の設計に採用していくことを検討していきます。



屋上に設置した太陽光発電パネル

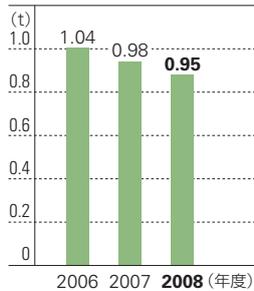


トップライト(店内)



## コンビニエンスストア事業

※1 1店舗当たりのレジ袋使用量



※2 食品リサイクルの実施地区

東京23区、名古屋市、多摩地区(一部)、京都府、熊本市

### レジ袋使用量の削減



#### お客様にもご協力いただきながらレジ袋の使用抑制に努めています

セブン-イレブンを含むコンビニエンスストア各社が加盟する(社)日本フランチャイズチェーン協会では、レジ袋の削減について「1店舗当たりの年間の使用重量を2010年度までに2000年度比35%削減する」という業界目標を設定し、お客様への啓発ポスターを掲出するなど、各社連携して取り組みを進めています。

2008年度、セブン-イレブンの各店舗では、啓発ポスターを掲出したほか、精算時のレジ袋の要不要の確認を徹底。7月から10月までの3カ月間はレジにもPOPを設置して、お客様へ一層の協力をお願いしました。

また、レジ袋有料化等推進条例を2008年に制定した東京都杉並区では、同年6月にセブン-イレブンとしてレジ袋削減計画書を提

出しました。ほかにも杉並区では、お客様がレジ袋不要の意思を表しやすいよう、2009年1月から6月まで店舗に専用のレジ袋ご不要カードを設置。カードには同区のキャラクターとして地元のお客様になじみのある「なみすけ」をデザインに採用しました。



2008年度のセブン-イレブン1店舗当たりのレジ袋使用量※1は953.3kgで、2000年度比32.9%の削減となっています。今後も、2000年度比35%削減という目標達成に向けて、取り組みを継続していきます。



### 食品廃棄物リサイクルの推進



#### 店舗で発生する食品廃棄物を堆肥や飼料、石鹼にリサイクルしています

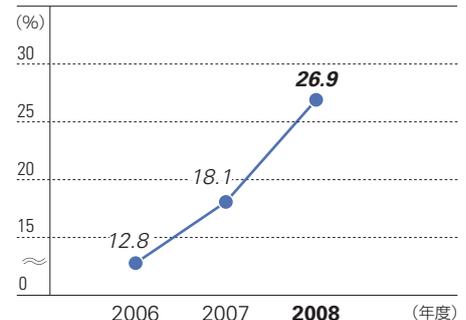
各店舗では、周辺の催事予定やお客様の来店状況・ニーズ、商品の販売動向などをもとに販売量を予測して商品を仕入れるなどの努力をしていますが、やむなく販売期限切れ商品が発生しています。

そこでセブン-イレブンでは、食品廃棄物を適正に回収・処理する「エコ物流」を1994年から運用しており、この仕組みを利用して、販売期限切れ商品など店舗で出た食品廃棄物を堆肥・飼料などにリサイクルしてきました※2。

また2007年からは、揚げ物を調理するフライヤーを導入して店内でフライドチキンなどを調理・販売しています。これにともなって店舗から廃食油が発生しますが、これらは回収した後、飼料原料・石鹼・塗料などにリサイクルしています。

2008年度は、こうした食品リサイクルの実施が1,830店舗まで拡大し、廃食油も含めた食品リサイクル率は26.9%となりました。今後も加盟店・お取引先の理解・協力を得ながら、店舗での食品廃棄物の発生抑制とリサイクルを推進していきます。

■ 食品廃棄物のリサイクル率



## 物流にともなう環境負荷の低減



### 車両と配送システムの両面から物流時の環境負荷低減を図っています

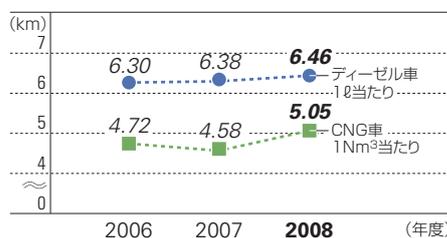
商品の物流段階では、配送車両の走行と、商品を仕分けする共同配送センターの運営にともなう環境負荷が発生します。セブン-イレブンでは配送業務の委託先と協力して「使用年数6年以内、走行距離50万km以内の車両を使用する」「事前予防整備点検を毎月実施する」という自主管理基準を作成し、車両のコンディション面からも環境負荷の低減に努めています。

2001年からは環境負荷低減と車両の安全運行を目的に、共同配送センターと店舗の間を運行する車両の全て(2008年度末3,993台)に車載端末を搭載。配送距離や最高速度、アイドリング時間、急発進や急加速・減速などの運転状況を数値化し、その分析結果をドライバーへの指導やコース設定の見直しに役立てています。

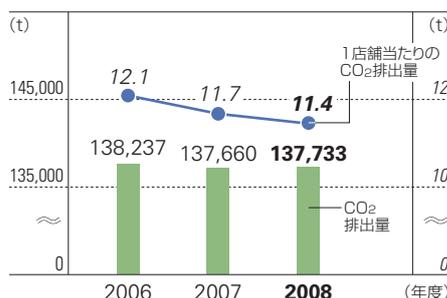
また、排ガスによる環境負荷の低減に有効な**圧縮天然ガス自動車(CNG車)**※3の導入を1999年度から進めており、**2008年度末現在、306台を導入**※4しています(2007年度末比53台増)。

しかしながら、2008年度の物流にともなうCO<sub>2</sub>排出量は、出店地区の拡大(富山県・福井県・島根県)によって走行距離が伸びた結果、微増となりました。今後は共同配送センターの省エネ化などの取り組みも強化していきます。

#### 燃費状況



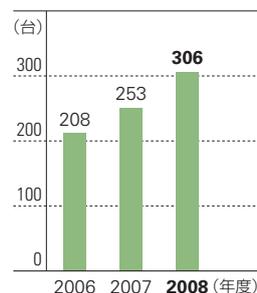
#### 物流にともなうCO<sub>2</sub>排出量と1店舗当たりのCO<sub>2</sub>排出量の推移



#### ※3 圧縮天然ガス自動車(CNG車)

窒素酸化物(NOx)や硫酸酸化物(SOx)などの有害物質をほとんど出さず、CO<sub>2</sub>排出量も少ない車両。

#### ※4 CNG車の導入台数の推移



## 加盟店との環境情報の共有



### ともに環境負荷低減に取り組むための情報発信に努めています

各店舗の営業にともなう環境負荷を抑えるためには、まず、加盟店との問題意識の共有が不可欠です。そこで、セブン-イレブンでは加盟店向けに発行している機関誌で毎回、環境問題に関する情報を発信しています。また、毎年、春期と秋期に全国の会場で開催している加盟店向けの商品展示会の会場に「環境コーナー」を設けて理解促進に取り組んでいます。

2008年度の商品展示会では、春期は地球温暖化防止について、秋期はセブン-イレブンの

環境への取り組みとフライヤー導入にともなう廃食油の適正処理リサイクルの2点について説明。廃食油でつくった石鹼を配布して、実際にリサイクルできることを示しました。また、2009年度の春期商品展示会では、個人が日常生活の中



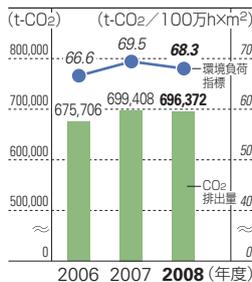
2009年度春期商品展示会の様子

でできる取り組みと、店舗でできる取り組みを紹介しました。



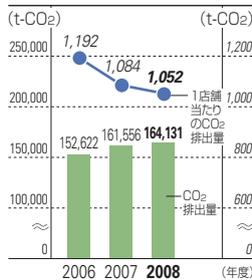
# スーパーストア事業

※ イトーヨーカドーのCO<sub>2</sub>排出量・環境負荷指標



CO<sub>2</sub>排出量は、店舗運営と物流にともなうエネルギー使用に由来する数値。  
環境負荷指標は、総営業面積×営業時間当たりのCO<sub>2</sub>排出量。

※ ヨークベニマルのCO<sub>2</sub>排出量と1店舗当たりのCO<sub>2</sub>排出量



CO<sub>2</sub>排出量は、店舗運営と物流にともなうエネルギー使用に由来する数値。

## 店舗における省エネルギー



### CO<sub>2</sub>排出量削減のために、省エネ機器の導入などを進めています

イトーヨーカドーとヨークベニマルでは、店舗運営にともなう環境負荷の低減のために、省エネルギー機器の導入や定期的な設備のメンテナンスを実施しています。また、新店では、

再生可能エネルギーの利用のためにソーラーパネルの設置や省電力で長寿命なLED照明の導入など新しい試みも始めています\*。

#### ① 連続調光設備

売場の照度を自動調整して均一に補正する「連続調光設備」を導入しています(2000年6月以降にオープンした全店舗)。



#### ② 照明の削減

冷ケースの棚下の照明をなくし、ケース上部全体を照らす照明を設置。灯数を半減しました(イトーヨーカドー52店舗、ヨークベニマル9店舗)。



#### ③ ナイトカバー

冷凍多段ケースに夜間のケース内の保冷効果を高めるナイトカバーを設置しています(イトーヨーカドー100店舗、ヨークベニマルは2001年以降の改装新店)。



#### ④ 雨水の利用

アリオ西新井・武蔵小金井店では、雨水を貯めてトイレの雑用水として利用しています。

#### ⑤ 氷蓄熱システム

売場の冷房用の電力使用量を抑えるために「氷蓄熱システム」を順次導入しています。これは、化石燃料の使用比率が低い夜間電力を使って作った氷を営業時間の冷房に利用する方式で、従来の冷房設備に比べてCO<sub>2</sub>排出量を年間約5%削減することができます(イトーヨーカドー6店舗、ヨークベニマル4店舗)。



#### ⑥ ヒートポンプ給湯器

「気体を圧縮すると温度が上がる」という原理を応用した「ヒートポンプ給湯器」は、空気を圧縮して得られる熱エネルギーで温水をつくります。従来の給湯ボイラーと比較して、効率が高く、給湯にともなう電力消費を大きく削減できます。

### 7 LED照明

消費電力が少なく、寿命が長いLED照明を導入しています。イトーヨーカドー武蔵小金井店では、子ども衣料品売場のベース照明として採用し、環境省の「省エネ照明デザインモデル事業」に認定されました。店内全体で約2,250台のLED照明を導入し、従来型の照明と比較して年間電力量312MWh、122トンのCO<sub>2</sub>排出抑制効果が見込まれます。



### 7 LED照明

### 8 高効率な照明器具

### 8 高効率な照明器具

照明の交換時には、従来製品のセラミックメタルハライドランプ70Wと同等な照明設計が可能な高効率器具50Wランプ(年間電力量:113MWh、CO<sub>2</sub>:39トンの削減)を採用。このほか、蛍光灯型FHT42W-4灯と同等な照明設計が可能な100Wランプ(年間電力量:116MWh、CO<sub>2</sub>:40トンの削減)も採用しています。

### 10 ジェネライト(小型コージェネレーションガスエンジン給湯器)



### 2 照明の削減

### 6 ヒートポンプ給湯器

### 9 太陽光発電システム

### 3 ナイトカバー

### 9 太陽光発電システム

アリオ鳳・武蔵小金井店では、店舗に「ソーラーパネル」を設置し、照明用電力として利用しています。アリオ鳳では、平面駐車場内に設置し、年間約7,000kWhの発電量で2トンのCO<sub>2</sub>排出量削減効果を見込んでいます。さらに武蔵小金井店では、店舗南側に壁面建材と一体型の太陽光発電パネルを設置。年間約24MWhの発電で、約9トンのCO<sub>2</sub>排出抑制効果を見込んでいます。



### 10 ジェネライト(小型コージェネレーションガスエンジン給湯器)

都市ガスを燃料とするガスエンジンで発電し、その排熱を給湯に利用する小型コージェネレーションガスエンジン給湯器「ジェネライト」を導入しています。都市ガスを使って電気と熱をつくるため、省エネ・省コストに高い効果があり、CO<sub>2</sub>の排出抑制にもつながります。一般的にコージェネレーションシステムによるCO<sub>2</sub>排出量の削減効果は15%以上とされています(26店舗)。





## スーパーストア事業

### レジ袋を中心とした容器包装の削減



イトーヨーカドー



ヨークベニマル

### お客様にご協力いただきながら、容器包装の削減に努めています

※1 イトーヨーカドーでは、レジ袋有料化未実施店舗において運用しています。

※2 2009年7月末現在、レジ袋有料化実施店舗数は、イトーヨーカドー31店舗、ヨークベニマル111店舗です。

イトーヨーカドーとヨークベニマルでは、加盟団体である日本チェーンストア協会の「2010年度末までにレジ袋辞退率30%」という統一の目標達成に向けて、レジ袋の削減を進めています。具体的には「ノーレジ袋」カードの設置やエコスタンプカードの導入<sup>※1</sup>、オリジナルのエコバッグの販売などを行っています。また、2007年度より行政、地域の消費者団体、事業者と協議の上、合意の得られた地域から順次レジ袋の有料化を開始しています<sup>※2</sup>。これらの取り組みの結果、2009年7月末現在、レジ袋の辞退率は、イトーヨーカドーで27.6%、ヨークベニマルで61.8%となっています。

また、惣菜・お弁当・生鮮食品などに使用する食品容器包装についても、使用量を削減す

るために素材の薄肉化や商品のばら売り・量り売りを推進。さらにイトーヨーカドーでは、2009年2月からプラスチック製容器に比べて廃棄燃焼時のCO<sub>2</sub>排出量を約70%削減できると言われている環境負荷の低い紙製の袋を、惣菜ばら売り商品用に導入しました。ヨークベニマルでも、店頭でお客様から回収したトレイをリサイクルした「再生トレイ」の利用を進めており、生鮮部門で使用するトレイの約48%となっています。



惣菜ばら売り用持ち帰り紙袋



再生トレイ

### ※3 食品リサイクル法

食品廃棄物に関する全ての事業者が一体となり、食品廃棄物などの発生抑制・再生利用に取り組むことが定められています。

### 2012年の目標達成を目指して食品リサイクルを推進しています

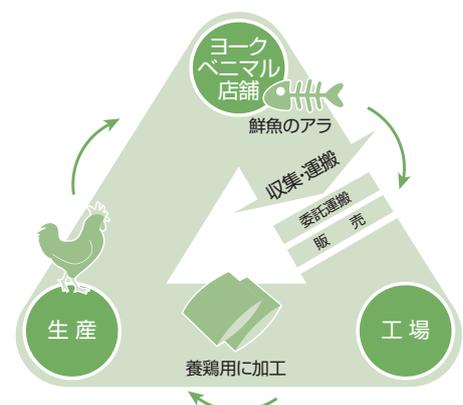
2007年12月に改正された「食品リサイクル法<sup>※3</sup>」で、食品小売業は「2012年までに食品リサイクル率を45%にする」という目標が定められました。イトーヨーカドーとヨークベニマルでは、この目標値の達成に向けて食品廃棄物の発生抑制とリサイクルに取り組んでいます。

イトーヨーカドーでは、店舗から発生した食品廃棄物をもとにつくった堆肥で野菜などを栽培し、それを商品として販売する「リサイクルループ」の構築を進めています。2007年7月からは、千葉県内の6店舗から発生した食品廃棄物を堆肥化し、その肥料を使用して野菜を栽培し、これを姉崎店・市原店で販売しました。2008年8月には、循環型農業のモデルとしてセブンファーム富里を設立しました(→P18)。こうした取り組みにより、2009年2月末現在、50店舗で肥料化や飼料化などのリサイクルを進めています。ヨークベニマルでは、食品廃

棄物の約2割を占める鮮魚のアラを養鶏用飼料に加工し、この飼料で育った鶏の卵を「健養卵」として販売する取り組みを全店で実施しています。

その結果、2008年度の食品廃棄物のリサイクル率はイトーヨーカドーで26.5%、ヨークベニマルで23.6%となっています。

#### ■ 健養卵の仕組み



# フードサービス事業

## 省エネルギーによるCO<sub>2</sub>排出量削減

セブン&アイ・フードシステムズ

### 店舗での省エネルギーに向けた高効率機器を導入しています

外食事業を営むセブン&アイ・フードシステムズでは、店舗の厨房設備や空調に多くのエネルギーを使用しています。地球温暖化防止に向けて店舗でのエネルギー消費にともなうCO<sub>2</sub>排出量を削減していくために、省エネ効果の高い設備・機器の導入に取り組んでいます。

デニーズでは、お客様においしい料理を提供するために店内での加熱調理を基本としています。厨房設備でのエネルギー使用量を削減していくために、ガス器具などと比較して消費エネルギーの少ないオール電化を推進。IH調理器への切り替えやエコキュート※4の導入を進めています。

2009年7月に開店したデニーズ検見川店では、エコ実験店としてさまざまな取り組みを行っています。オール電化の厨房設備に加えて太陽光発電システムを導入し、発電した電力は

客席や厨房内の照明に利用しています。また店内全ての照明、看板に、消費電力の少ないLED照明を採用しています。さらに、雨水を再利用して屋根や空調の屋外機に散水することで空調機の負荷を軽減するほか、節水型のトイレを採用したことで、トイレの水の使用量を低減させています。また、断熱性の高いペアガラスを使用して店内の冷暖房効率を向上させています。



ソーラーパネル



発電量表示パネル



客席のLED照明



雨水ろ過装置

## 食品廃棄物削減とリサイクル率向上

セブン&アイ・フードシステムズ

### 店舗特性に応じた食品リサイクルに取り組んでいます

味と鮮度を重視して店内調理を基本としているセブン&アイ・フードシステムズでは、店舗での下ごしらえの時に調理廃棄物が発生します。それら調理廃棄物や、お客様の残食などの食品廃棄物については、その発生を抑えるとともに堆肥化などの有効利用を推進しています。

デニーズでは、セブンイレブンが運用している食品リサイクルの仕組み(→P28)を利用して食品廃棄物の適正処理とリサイクル促進を図っています。2008年度までに、この仕組みを利用して生ごみの堆肥化を83店舗が実施しています。その結果、セブン&アイ・フードシステムズの2008年度の食品廃棄物のリサイクル率は20.5%となりました。

外食産業は、食品リサイクル法で「2012年までに食品リサイクル率を40%にする」と定められています。この目標値以上のリサイクル率達成に向けて、セブン&アイ・フードシステムズでは2012年までにリサイクル実施店を約330店舗まで拡大するとともに、食材梱包の小口化を進めて、必要な量の食材を仕入れ、使い切ることで廃棄ロスの削減に努めています。



店舗でのごみ回収

#### ※4 エコキュート

大気中から吸収した熱を利用してお湯を沸かす電気給湯器。



## 百貨店事業

### 設備改装によるCO<sub>2</sub>排出抑制

そごう・西武

#### エネルギー効率の高い機器の導入を進めています

そごう・西武の店舗におけるエネルギー消費量の約4割を占めるのが照明です。そこで、そごう・西武では省エネ性に優れた照明の導入を進めています。

西武池袋本店では、2010年に完了予定の全館改装の一環として、省電力で寿命の長いLED照明を導入した約70坪の売場を2008年11月に完成させました。この売場は、LED照明を使った百貨店売場としては業界最大規模であり、天井から壁面、ディスプレイ、フィッティングルームまで、売場の約9割の光源にLEDを採用。これによって、売場内での電力消費にともなうCO<sub>2</sub>排出量を、従来の照明と比較して4割以上削減する効果が見込めます。今後、他の店舗でもLED照明の導入を進めてい

きます。

また西武池袋本店の改装では、照明用だけでなく空調用の電力消費も抑制するために、更新時に空調設備を省エネ性の高いものに切り替えるほか、外気を利用する冷房システムを導入しています。さらに、変圧器などの電力関連設備、冷凍機やボイラーなどの熱源関連設備についても、省エネルギーを目的とした大規模な改修を行いました。



西武池袋本店のLED照明



### 店舗における省エネルギー

そごう・西武

#### 日本百貨店協会と連動した環境活動にも取り組んでいます

「COOL BIZ」は、環境省が提唱する地球温暖化対策の一つで、冷房時の室温を28℃にしても快適に過ごせるライフスタイルの提案です。2009年5月、そごう・西武は環境省が主催したイベント「『COOL BIZ』Presentation in KANSAI」に日本百貨店協会の一員として参加。ファッションショーの運営に携わり、2名の社員がモデルとして登場しました。

また、ライトアップ施設の消灯を呼びかける「CO<sub>2</sub>削減/ライトダウンキャンペーン\*」に毎年参加しています。2008年度は、6月21日および7月7日に消灯時間を1、2時間早めました。これにより、全店で合計約2,000kWhの電力削減効果がありました。

このほかにも、地球温暖化対策の一環として「打ち水大作戦」を8月に実施。お客様にも楽しみながら環境活動にご参加いただきました。

※ ライトダウンキャンペーン  
地球温暖化問題への認識を広めることを目的として、環境省が提唱し、2003年度から実施しているイベント。多くの人が見慣れた夜間の施設ライトアップをやめることで、電力消費への意識を啓発しています。



環境省主催「COOL BIZ」ファッションショー



打ち水大作戦



## 「エコスタイル」の提案

そごう・西武

### “エコ”な暮らしを提案する「バイクコンシャス ライフ」を開催しました

そごう・西武では、環境負荷が低く、かつ快適でファッションブルな「エコスタイル」をお客様に提案しています。その一環として2009年4月から5月にかけて「バイクコンシャス ライフ」と題したイベントを企画しました。

これは「ビューティ」「エコロジー」「ヘルシー」をキーワードに、自転車を生活に採り入れたライフスタイルを提案するものです。イベント期間中、自転車に乗る時のファッションやグッズを売場で提案したほか、試乗会やマナー教室、トークショーを開催しました。

今回、西武池袋本店では自転車が走行中にCO<sub>2</sub>をまったく排出しない乗り物であることから、自転車およびその周辺商品の購入やイベントに参加すること

をエコアクションと捉えて、お客様にエコアクションポイントを発行し、貯まったポイントを使って抽選で景品が当たる「店内エコアクションポイント抽選会」を環境省後援のもと、実施しました。

イベントでは1,000人を超えるお客様にご参加いただき、抽選会で貯まったエコアクションポイントの合計数に応じてCO<sub>2</sub>削減のための「カーボンオフ



タレントの長谷川理恵さんをお招きした「バイクコンシャス ライフ」のトークショー

セット」を実施。途上国におけるクリーンエネルギー開発事業に投資されることで、途上国の経済発展とCO<sub>2</sub>削減に貢献しました。

## 「わたしにできるエコ」の推進

イトーヨーカドー

### 各店舗で環境に配慮した商品・ライフスタイルを提案しています

イトーヨーカドーは、2008年度から環境に配慮した商品やライフスタイルの提案を通じてお客様とともに「わたしにできるエコ」の輪を広げていく目的で、オリジナルキャラクター「リボミー」を設定し、「エコリボン」キャンペーンをスタートしました。提案する商品の選定にあたっては、社外のアドバイザー3名からのご意見などを参考にしています。

例えば2009年夏は、過度な冷房がなくても快適に暮らせる衣料品や寝具などを提案。売場にリボミーの登場するPOPをつけて、環境配慮につながる商品であることをお客様に案内しました。また、環境についてお客様と一緒に考えていただけるように、小冊子も作成・配布しています。

さらに、アリオ鳳・武蔵小金井店には「地球にやさしく・人にやさしく」をテーマとした「エコ&ユニバーサルデザイン」コーナーを開設しています。このコーナーでは「省エネルギー・リサイクル・再使用・自然エネルギー」に関するイトーヨーカドーの取り組み

みをパネル・映像などで紹介。その一つとして、武蔵小金井店では、店舗に設置している太陽光発電パネルでの発電量を表示しています。



リボミーの登場するPOP



「エコ&ユニバーサルデザイン」コーナー



お客様向け小冊子



太陽光発電の解説パネル